

網附森

三嶺から西へ進んだ土阿国境線は地蔵の頭で南に方向を変え、網附森を立ち上げる。
西熊溪谷の西を固めて豊かな笹の尾根を三方に伸ばすその山容は穏やかで、雄工で登山者を惹きつける何かを持っている。(四国の1000m山峰より)



牛ノ瀬 天狗森 三嶺 カサガ 剣山 白髪 中栗 石立

誰もいない
1,600mの世界



網附森
TUNATUKEMORI
1,643M

360°の山岳美
東から石立山～白髪山～剣山
三嶺～天狗森～牛ノ瀬～天狗山
1700m級の土阿国境の
オールスターズの山々がそびえる。

三嶺方面へ

道が定かでないほどの深いササが生い茂っている

網附森
1,643m
二等三角点

ササ深い(ていど上くらい)

眼下に大所～ダム湖～香北
中景に安芸との境 五位嶺～杉谷～スツ場
遠景に太平洋まで望む。絶景。
雄大な眺めを十分に楽しめる。

この一年あつ「平成最後の」というフレーズがあふれたが、この山行が僕にとっての平成最後の山になった。

点と点を結べば線となり、線と線を結ぶと面ができて、面と面をつなげば立体となる。
矢筈峠～網附森を歩いて、京柱峠～白髪峠までの土阿国境がつかずからた。

分水嶺
網附森への稜線は、降った雨と雪が県境と徳島県境に分ける分水嶺。
一滴の雨水もどちら側にも落ちるかで、注ぎ込む川も海もちがってくる。
自分の人生も日々の行為も分水嶺のくりに生じて今につながっている。
偶然も必然もくりにして、いつか終点の海に向かうんだ。さあ、分水嶺を意識して歩くと、いろんなことを考える。

この世界を観るために、この世界を聞くために、生きている。
それだけで生きている意味はありあまるほどある。



ミカの大群羊にも会った。
22頭まではとくに数えたが、30頭近くの大群羊にとどろき振られた。

ササ原の中に白い奇岩が点在。美しい山岳風景。

シカ大型風ワナ

ずっと稜線にそって歩ける快適コース。さえずるものがない空を見上げながら歩けることは幸せ。

網附森が見えたら、どろりとした穏やかな山容。

フナヤウジロモミ、ダケカンバなどの美しい森林

冬に葉を落とす針葉樹の森。冬場は樹冠下に青空がみえる。

矢筈が指の周

矢筈峠(アラン峠) 祖谷側を矢筈峠と呼ぶ

WC
とても清潔

東谷林道

登山口
網附森まで約5km
熊出没注意看板



2019.3.24
地面や樹木に前夜の雪が残っているが、空は快晴。井上陽水の「青空ひとしきり」が何度も耳の中で聴こえた。
一人きりの山。単独行。
しかし孤独ではなくむしろ満たされている。哲学者の三木清は「孤独は山ではなく街にある。一人の人間にあるのではなく大勢の人間の間にあるもの」と書いた。

四国のツキノワグマ
1996年の時点で四国のツキノワグマは約50頭未満。
近年の調査では10～20頭ほどしか確認されていない。
絶滅の危険性がとても高い状態。

こわいけれど、真黒で神々しい毛をまとったツキノワグマを見てみたい。

日本には10頭と推定されている。

ササ原の中は川のはいり(敷道)が縦横に見える。すごい頭数がいいる。
熊よけ鈴はチリンと鳴る高音を出すのが効果がある。
300mくらい聴こえる。



冬と春が同居した山行日和。雪は昼にはとけて黒い土にしみこんでいた。
この一滴の雪は何か、何故か土の中をみがかれて、どこかの泉からこんこんとわき出るんだ。うなめし、鬼あずき、考えちゃう。

参考文献
「四国の1,000m山峰」

矢筈山 1,607m

白い岩が空に向かって並び

落葉広葉樹林と透かした青い空が見えてくる。

5月にはシバツツギとて美しい。

フナミズナカバ、リョウコなどアツ彩

小松島山

コメツツジ

稜線のツツ原は、天空の台地

矢筈山とのダブルハッパも楽しめる



戦後この道の工事に従事した阿国の人たちが、阿国の峰に似ていることからアラン峠と呼んだことからこの名がつけられた。

